

1千年の歴史をもつまち、品川宿。

このまちは古く平安時代頃から人々が住み始め、鎌倉時代にはすでに湊町として発展し、武蔵の国唯一の物流の拠点として栄えた古いまちです。

1601年に徳川家康が「宿駅伝馬制」を定め東海道が日本を代表する街道になると、その第一の駅＝宿として、人や物、文化、情報がここ品川宿を中心に行き交うようになり、益々発展していきました。明治維新以降は、日本が近代化に向けて突き進む中、工業の中心都市へと変貌し、近代日本の経済的發展を支え続けました。しかし中世以来1千年にもわたって発展し続ける一方で、まちとしての品川宿は余り変わることがありませんでした。21世紀になった今も、相変わらずずっと古くさくて、人のぬくもりがあり、同じ日本人から見ても懐かしさを覚える、そんなまちであり続けているのです。

江戸庶民の一大レジャースポット。

「江戸」の入口に位置する品川宿は、東西の文化が交流する文化都市として発展しました。また自然環境にも恵まれ、西は御殿山から南へ丘陵地帯が連なり、春は桜、秋は紅葉の名所として知られ、関東一円から行楽の人々が押し寄せました。また東の品川浦は魚介類の宝庫で、釣りが潮干狩り、船遊びの人々にぎわい、町場には、それらの新鮮な魚介類をふんだんに使った贅沢な料理を出す店や旅館が軒を連ねていました。つまりここ品川宿は、海、山の行楽があり、町場では最前線の情報が行き交い、流行の最先端を知ることができ、まさに、江戸庶民には最高のレジャースポットとして人気を集めていたのです。



祭り 祭りを中心に1年が回るまち。

品川宿では年間を通じて多くの祭りが行われていますが、中でも最も重要なのが、6月初旬に行われる品川神社の「北の天王祭」と荏原神社の「南の天王祭」です。どちらも伝統的な祭りで、大きな神社神輿、町内神輿がまち中を練り歩きます。品川宿の人々はこの何百年も続く祭りを心から愛し、そして何よりの誇りとしており、1年の暮らしはこの祭りを中心に動いているといっても過言ではありません。品川宿の魅力を解く第一の鍵は、この祭りにこそあるのです。

品川宿が浮世絵に描かれたわけ。

浮世絵は、美人、役者、風景などを題材にした江戸時代の風俗画ですが、今という、情報紙のような役割も持っていました。つまり世間では今どんなことが流行っているのか、役者や女性ではだれが人気があるのか、行楽に行くには今どこが一番か、そのような最先端の情報を当時の人々は浮世絵から得ていたのです。ここ品川宿もお花見や海辺の遊び、歓楽街の美人など、絵になる題材に事欠きませんでしたから、浮世絵師はこぞってこのまちを描いたのです。

昔の道幅のまま残る東海道。

江戸時代には、政治の中心地である江戸から地方へと伸びる主要幹線道路「街道」が整備されました。なかでも江戸と京都を結ぶ「東海道」は最も重要な道路でした。そして江戸時代は徒歩、馬、かごで旅をしましたので、お江戸日本橋から大阪までの道筋に、57の駅＝宿場が作られました。ここ品川宿は、日本橋から約8キロにある最初の宿場町。そして今もまちの真ん中を通る東海道は、江戸の昔からの道幅をそのままに、北品川の八ツ山口から鈴ヶ森口まで約3.8kmが残る、貴重な歴史遺産なのです。

細長く狭い地形が、奇跡を生んだ。

海岸部の埋め立てが進む以前の品川宿は東に品川浦、西に御殿山の山並みが迫るとても狭い地域で、そのまちの真ん中を東海道が通っていました。この東西に狭く、南北に長い地形が品川宿には幸いしたといってもいいでしょう。明治5年、日本の最初の鉄道、東海道線もこの細すぎるまちを避けて、御殿山の谷筋に進路を取りました。そしてこの鉄道で突き崩されたエリアに今は、近代的なオフィスビルが建ち並んでいます。また大正時代末から東側の海は急ピッチで埋め立てられ、工場地帯となりました。この埋め立ての工場地帯もまた、現在は高層オフィスビル/マンションが混在する近未来的なニュータウンへと生まれ変わりました。しかしそんな周囲の大変動をよそに、品川宿は古き良き「人の住むまち」を守りつづけています。品川宿の周囲が再開発の波に洗われた中、古き良き姿が残ったこのまちの「奇跡」に、誰もがほっと胸をなで下ろすのです。



未知の空間に迷い込む楽しさ。

東海道の道筋を歩いていると、枝別れた細い道があちこちにあらわれます。ちょっと好奇心をくすぐるこの迷路のような路地を歩くと、地元の人たちが丹精した植木が並んでいたりと、井戸があったり、洗濯物が干してあったり、まちの暮らしと文化が直に感じられます。そんな路地で地元の人に出会ったら、ちょっと会釈をお願いします。

誰もが感じる、懐かしいまち。

「下町」。この言葉を聞くと、お互いの人間関係が濃く、世話焼きのおばさんがいる気あふれる庶民の生活シーンを思い浮かべます。ここ品川宿も今や東京には数少なくなったそんなまちのひとつで、多くの人がこの「懐かしさ」を求めてこのまちを訪れます。散策の折には、ぜひまちの人にも声をかけてみてください。地元の人々はみんな自分のまちが大好き。きっと面白い話が聞けるといいますよ。

歴史を伝える美しい商家建築。

北品川宿の星野金物店、丸屋履物店、南品川宿の富田屋工芸所、松岡畳店、竹内医院など、東海道筋にレトロな店構えの建築を探すのも、まち歩きのお楽しみのひとつです。

まち並みをつなぐ。

まちを歩いてもお気づきのように、品川宿では独自の景観計画のもとに、看板、のれん、ひさし、戸口、シャッターなど、店舗のデザインや色彩に一定の基準をもうけ、品川にふさわしい景観整備を進めています。石畳の歩道や共通デザインの街路灯も、まち並みをつなぐ景観活動の一環です。



景観をつなぐ。東海道を石畳でつなぐ。

古き良き時代の東海道の雰囲気蘇らせつつ、歩きやすく安全な道にと、東海道の歩道を石畳に改修する活動が続けられ、ついに平成24年3月末に、品川宿全域が完成しました。また北品川宿一帯は併せて電線地中化の工事も完了し、すっきりとしたまち並みの景観となりました。まちでは全57ヶ(53+大阪までの4宿)の各宿場から街道松を寄贈してもらい、それを東海道沿いに植える活動を続けています。街道松の広場の松は、その第1号で浜松宿から贈られたものです。



ようこそ品川宿へ 誰もが懐かしい、ちょっとレトロなまちをお楽しみください！

心がほぐれる寺社の緑。
品川宿の周辺には実に寺社が34、主な神社が16もあります。1千年の歴史の中で、日本各地から人々が集まってきた結果、このように多くの信仰の場が生まれた。緑が多いお寺や神社は、宗教の違いを越え、どなたにとっても心地よい憩いの、とてもよい空間になっています。



まち角の歴史案内看板
まち角に掲げられた小さな看板には、その土地の歴史がワンポイント記されています。まち歩きの際には、ぜひ一読下さい。



まち歩きの際は銭湯へ！
品川宿にはまだ2軒の銭湯が盛業中。昔ながらの銭湯スタイルを守る「吹上湯」、天然温泉が人気の「天神湯」。まち歩きで疲れたら銭湯に入ってリフレッシュ！湯上がり一杯の飲みに出かけましょう。



品川宿で、新しい働き方・交流、始まっています。



RayTerrace レイテラス
北品川にある貸会議室・レンタルスペースです。明るく、屋外テラスの内装をイメージしています。光あふれる落ち着いた空間で仕事をしてみませんか。C-10
〒140-0001 品川区北品川1丁目22-7
石田北品川ビル2・3
https://ray-terrace.co.jp/

SHINAGAWA1930
品川の歴史を繋いできた建物をリノベーションし、品川の新しい拠点として、様々な場所から訪れる人たちの交流を生み、発信していく複合施設です。ソーシャルカフェ「PORTO」、日本酒の古酒・熟成酒専門店「いにしえ酒」、カフェ&フーズ・キングススペース「ママプラスカフェ」等の店舗が営業しています C-10
〒140-0001 品川区北品川11-21-9,10
https://shinagawa1930.jp/



